

佐倉アクティブ「和算と算額の世界」

この講座は成田山の算額が奉納されている成田山霊光館で開講され、参加したのは普通科2年生2名、理数科1年生5名、2年生2名の計9名でした(写真①)。講座に興味をもってくれた成田高校の生徒も3名参加しました。成田山霊光館学芸員の猪岡萌菜さんと、千葉大学大学院教育学研究科2年の三橋可奈さんに講師をしていただきました。

算額とは、江戸時代から特に発展してきた和算の文化で、おもしろい問題が作れたときの感謝の意を表すときや、他の人への挑戦状を載せたいときなど、様々な理由で神社仏閣に奉納された絵馬や額のことです。この時代の庶民の遊びとしても親しまれてきたようです。

講座は最初に算額の調査を行い、問題文や内容、図形に関する議論を行いました(写真②③)。文章が漢文で書かれているため、解読をしないと問題の内容が分からないので苦戦していましたが、三橋さんの作成した和算用語資料と照らし合わせながら読み進めていきました。

その後霊光館の一室をお借りして、講義を行いました(写真④⑤)。三橋さんからは和算や算額の文化についての講義で、和算が発展した背景には「遺題継承」や「算額奉納」という文化が関わっていることを学習しました。猪岡さんからは和算が発展した時代の成田・佐倉やその周辺の状況についての講義で、これまでに成田山にいくつ算額が奉納されたのか、当時の江戸から成田山までの旅行文化と佐倉街道沿いの状況、成田山にゆかりのある市川團十郎について、当時のこの地域の人口の把握の仕方などを学習しました。

和算やその背景について学習した後は、調査した算額の問題を、グループに分かれて解いていきました(写真⑥)。難易度の高い問題ばかりなので、解法を見つけるまでには至りませんでしたが、和算や算額に関する興味関心はより深まったようでした。この活動にさらに興味を持った生徒は、今後も探究活動として和算について調査していくようです。



↑写真① ↓写真②



↑写真③ ↓写真④



↑写真⑤

→写真⑥

SSH 活動掲示板は

こちら→



これまでの SSH 通信は

こちら→

